Organo de HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

Heroldo de HEL

N-ro 85 julio-aŭgusto 2000

HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO 北海道エスペラント連盟

ĉe HOŜIDA Acuŝi
Mijanomori 2-18-18, TOMAKOMAI
053-0844 JAPANIO

〒053-0844
苫小牧市宮の森2丁目18-18 星田 淳 方

ENHAVO 目次

La Universala Kongreso en Tel-Avivo
世界大会初参加記
NAKANO Cuneaki **中野 常明** 3

Skiza historieto de Esperanto-Movado en Hokkajdo
北海道エスペラント運動小史
HOŜIDA Acuŝi **星田 淳** 4～5

Fjodor Postnikov – rusa inĝeniero kaj esperantisto
フォードル・ポストニコフの生涯
～極東ロシアそして日本にエスペラントを伝えた男～
Elena NEDBAJLOVA kaj Aleksandr TITAJEV 6～7

Kiuj kaj kio vi estas – poetoj el Ĥabarovsk
ハバロフスクの詩人たち（1）
Miĥail E. KORĈMARJOV 8

Nova-kodo de la japanaj karaktroj [la aina]
アイヌ語対訳記事「新しい文字コード」
JOKOJAMA Hirojuki **横山 裕之** 9～11

Danke ricevitaj **受領郵便物**
HOŜIDA Acuŝi **星田 淳** 12～13

Raporto pri la 8-a kaj 9-a kunsido de HEL-komitato
第8回、第9回HEL委員会報告
HOŜIDA Acuŝi **星田 淳** 14

Disdonado flugfoliojn pri Esperanto
HELによるエスペラント宣伝チラシの配布について
KAWAI Yuka **川合 由香** 15

Mi insiste kontraŭstaras tian agon, ke HEL oficiale kontraŭstarus la politikan movon de Japanio, en kio la angla lingvo fariĝu la dua oficiala lingvo de Japanio
HELが組織の公的意識として、我が国の英語第二公用語化政策に反対することに、私は断固反対する
MATSUNO Hajime **松野 元** 16

Protesto kontraŭ "El la redaktejo"
「エル・ラ・レダクテーヨ」における問題
MATSUNO Hajime **松野 元** 17

Adiaŭa letero **退会あいさつ**
KAWAI Yuka **川合 由香** 18

El la redaktejo **編集部から**
KABAYAMA Yûsuke **樺山 裕介** 19

Ni favore atendu vin en Otaru!!
Anonco pri la 64-a Esperanta Kongreso de Hokkajdo
小樽で皆さんお待ちしています！！
第64回北海道エスペラント大会 20

TTT-Paĝo de HEL
北海道エスペラント連盟のインターネットホームページ

9月3日現在　HELホームページへのアクセス数
エスペラント版　1740件、日本語版　4172件

更新履歴　日本語版

49　2000.8.17　「新聞記事等の一覧」を更新
48　2000.8.10　第64回北海道エスペラント大会の開催について
47　2000.7.11　かえるネット掲載の沖縄報告をエスペラント訳しました（翻訳依頼）
46　2000.7.4　国際語エスペラントとエスペラント運動について（「エスペラントあれこれ」追加）

ホームページのアドレス　(URL)
http://www2u.biglobe.ne.jp/~HEL/index.htm
HELの電子メールアドレス
hel@mud.biglobe.ne.jp

Anonco pri ŝukcesinto de la ekzameno de Japana Esperanto-Instituto
日本エスペラント学会学力検定試験合格者のお知らせ　研究教育部
S-ro MANABE Tosiyuki sukcese trapasis la ekzamenon 4-agradan de Japana Esperanto-Instituto, ĉe la maja kunloĝado de HEL.
真鍋　俊行さんが5月合宿で行われたJEI学力検定試験4級に合格しました。

Novaĵetoj

***Tomakomaja Esperanto-Societo** okazigis ekspozicion kadre de la festo de urbanaj hobigrupoj de la 24-a ĝis la 27-a de la aŭgusto.*

***La retpoŝta gazeto** "Lingvo internacia, Esperanto" (13-a) plej nova eldoniĝis la 25-an de aŭgusto. En ĝi estas la artikoloj "Kial oni ne uzas la literojn y kaj w?" kaj komencanta leciono pri libereco en vico de vortoj kaj pri pronomoj.*

***Samideanoj el Naĥotoka kaj Vladivostoko** jam alvenis por nia kongreso.*

La Universala Kongreso en Tel-Avivo
世界大会初参加報告

NAKANO Cuneaki　中野　常明

＊58ヶ国から約1200名集まる

今年の世界大会は、7/25～8/1、イスラエルのテルアビブで開かれ、58ヶ国から役1200名のエスペランチストが集まった。昨年のベルリン大会は約2700名、一昨年のフランス、モンペリエ大会は約3100名だったから、今年の参加者は少ない方だ。敵対しているアラブ諸国からの参加者が少なく、治安上の不安があったからと思われる。

札幌からは、常連の児玉夫妻をはじめ、初参加の筆者も含め8人が参加した。日本人全体では約200名で、最大の参加国であった。因みに二番目に多かったのはドイツで約110名であった。筆者にとって、唯一の外国知人は、おなじみの韓国のチェさんのみだった。

＊開会式と主催国の夕べ

開会式は本部役員からの報告、主催国役員の紹介、各国の活動報告、主賓の挨拶、参加各国代表からの一言など延々と続いた。中間に、休憩を入れたり、余興の歌をはさんだりしたが、チンプンカンプンの筆者にとっては、苦行の4時間であった。La Esperoを合唱してお開きになった時には、正直言ってほっとした。但し、言葉の異なる58ヶ国の人々が一堂に会し、唯一の言語で意志疎通を図っている現実を目の前にして、感動らしきものを感じたのは確かである。

主催国が参加者を歓迎して、Nacia Vesperoが開催された。歌や踊りで歓迎してくれたが、レベルが高く、好評であった。特に切れの良いバレエ風の踊りは、ロシアの民族舞踊団とそっくりで、多分ロシアからの移民の人達ではないかと思われた。最後に全員が立ち上がって拍手を続け、踊りまでアンコールに答える賑やかさだった。これでは退屈するひまなどなかった。

＊宴会とダンスパーティー

大会三日目に、希望者による宴会とダンス・パーティーが開かれた。札幌からの8名は全員参加した。ガリラヤ湖でキリストが奇跡を行った時に獲れたという聖ピーターの魚料理が出たが、日本の鰺の干物に似た味がした。日本を離れて、暫くはまともな肉も喰べていない頃に、見透かしたように分厚い大きなビフテキが出てきたので、皆エビス顔になった。地元のスポンサーが提供したワインが飲み放題だったので、メートルが上がり放しだった。宴会の終わる頃からダンスが始まった。我がパーティのB女史が始めたフォークダンスがきっかけとなり、会場内を手をつないだ人たちが、次々と仲間を増やして大きな輪になって踊るというおまけもついた。

＊観光旅行

大会の前後と最中にも観光旅行のプログラムが組まれており、希望するコースを選んで参加出来た。専門のバスガイドは、英独仏語と自国のヘブライ語を話せるのが殆どであるが、エスペラントは話せないので、地元のエスペランチストが通訳をしてくれた。同行のベテランに日本語訳を期待したが、実際には無理だった。日本語で説明している間に、次のエスペラントの説明が始まるので追いつかないのである。他人を当てにせず、自ら努力せよという事である。事前の予備知識も必要である。

名所旧跡の溢れる国で、古い教会やいわくのある史跡に、最後は食傷気味になった。一番緊張したのは、ホロコースト記念館であった。百五十万人の少年・少女が虐殺された歴史を語るガイドの声は、陽気な弾んだ声から沈痛な低音に変調した。おのずから、心の傷の深さを感ずるひとときであった。

＊市民は意外に明るい

夕方涼しくなると、ホテルの前にある海浜公園には、沢山の家族連れが集まり、小さな子供も交えて、バーベキュー・パーティが夜遅くまで続いていた。ユダヤ系もアラブ系もごちゃまぜのように見えた。酔い覚ましにぶらついていたら、声を掛けられた。太鼓をたたいて地元の唄を歌ってくれた後、日本の唄を歌えといわれた。酔った勢いでそれに応じ、楽しく交流してきた。市民の表情は予想以上に明るかった。この明るさが、和平の成就につながる事を祈りながら帰途に着いた。

Skiza historieto de Esperanto-Movado en Hokkajdo
北海道エスペラント運動小史

HOŜIDA Acuŝi

（注）これは前号（N-ro 84)の１６～１７頁に「北海道エスペラント連盟の歴史」として出たものですが、行の脱落があり、その部分の訂正文を出すつもりでしたが、編集長から「正しい全文を出そう」との意向が伝えられたので再度出します。当初「HEL の歴史的変遷」を書く、ということでしたが、HEL 結成以前の歴史や HELの外で活動した人たちも無視できないので、ここでは上のタイトルにしました－星田

１．前史－個人研究時代

１８８７年（明治２０年）、ロシア領だったポーランドで発表されたエスペラントはまずロシア国内に広まった。ロシア極東のウラジオストクでこれを知り、帰国後１９０６年（明治39年）日本で最初の学習書「世界語」を出したのは長谷川辰之助（作家・二葉亭四迷）だった。この年、東京では日本エスペラント協会が結成され、第１回大会も行われている。翌１９０７年、北海道で初めての講習会が木村自老によって函館で開かれたとの記録がある。その後各地に学習者が増えてくるが、道内では個人的研究の時代がしばらく続いた。

２．組織活動の成長

明治時代の学習者の使った本はその後古本屋で時々見つかる。１９１９年（大正８年）三田智大（みたのりたか、当時北大生）は札幌の古本屋で上記の「世界語」を入手し学び始めた。三田を中心に集まった学生たちは２月、北大エスペラント会を結成。道内最初のエスペラント会である。

翌１９２０年東京の日本エスペラント学会からの宣伝講習会を札幌で開き多くの参加者を集めて６月札幌エスペラント研究会誕生。続いて開いた講習会も多数の人を集めた。この会はその後解消、更生があったが、１９２５年２月になって札幌エスペラント会が結成された。

この間、札鉄、函館、小樽、さらに旭川、釧路、根室などに地方会ができ、全道的組織に発展する準備が整いつつあった。

３．北海道エスペラント連盟結成

前項のような運動の発展に大いに寄与した団体としてエスペラント普及会（EPA)がある。これはエスペラントの普及を教義の一つとする宗教団体大本教（おおもときょう）が設立した団体だがこの時期各地で盛んに講習、講演などを行ってエスペランチスト（エスペラントを学び使う人）と協力していた。１９３２年３月、エスペラント普及会北海道本部は北海道エスペラント大会の開催を道内のエスペラント会に呼びかけ、これによって８月、大本教北海道別院（空知郡山部村、現在の富良野市山部）で第１回大会が開かれた。

参加者は１８名と少なかったがていねいに準備されており、北海道エスペラント連盟（HEL）がここで結成された。

４．運動の発展と戦争の影

その後各地に地方会もでき、運動は順調に発展して１９３６年（昭和１１年）には日本大会を札幌で開くほどになった。だが、１９３１年の満洲事変以後日本は次第に戦争のための国家体制作りを進め、エスペラントなど文化運動への監視・統制は厳しくなってきた。

連盟に入った個人・地方会は当時の「中立」エスペラント運動を進める人たちで当時プロエスなどと呼ばれた左翼・反体制派エスペランチストは別にグループを作り、参加しなかった。また中立運動側も「左翼」の疑いをかけられ警察に監視されるのを避けるために、「赤色分子（左翼）の入会拒絶」を宣言して警察に届けたり特高警察官を会員にしたり、苦労が多かったと当時の先輩は語っている。

一方プロエス（左翼）のエスペランチストは当時釧路と函館にグループがあったが治安維持法による弾圧でやがて活動できなくなった。中には太平洋戦争中ボルネオに島流しされ苦労し

た人たちもいる。

エスペラント運動とは中立の国際語の普及実用に努めること、すなわち国際交流がその中心だから、戦争はその活動の場を失うことを意味した。国内での会合も外国との文通もすべて特高警察の監視下におかれ、　戦況が厳しくなるにつれ連盟も活動できなくなり、1943～1945年（昭和18～20年）の間は大会も開かれなかった。

5．敗戦・平和－運動再生

1945年 8月15日、大日本帝国は連合国に降伏。特高警察など日本政府側の規制は消えたが52年まで連合軍（実質は米軍）による占領下におかれた。平和回復後のエスペラント運動の立上りは早かった。２ヵ月後の10月、日本エスペラント学会（東京）は機関誌を再刊（ただし占領軍の検閲のため実際に出たのは12月）し、北海道でも各地のグループが活動を再開した。北海道エスペラント大会は占領軍総司令部へ「エスペラントによる国際文通再開許可を求める」決議文を出した。文通は再開されたが1952年の講和条約発効（独立）迄は占領軍に検閲されてC.C.D.(Civil Censorship Detachment: 民間情報検閲局）の青いスタンプを押して配達されていた。

外国同志の来訪もはじめは占領軍関係者だったが、講和後は普通の人たちがだんだん増えてきた。しかし日本人はまだ貧しく、外国に出るのは個人ではなかなか難しかった。北海道から戦後初めて海外のエスペランチストを訪ねた人は実習航海の途中船が米国に立ち寄った機会を利用した小樽海員学校の先生だった。

毎年世界のどこかで開かれる世界エスペラント大会は1905年の第１回以来ほとんどヨーロッパ、たまにアメリカで開かれており、日本人の参加は少なかった。戦前北海道から参加した人は函館の眼科医と札幌商業学校の先生の２人だけのようだ。敗戦後の日本人は生活に追われて世界大会どころではない、という状態だった。

ようやく生活に幾らかゆとりが出てきた頃、世界大会を日本で、という計画が立てられ、1965年、東京で第５０回大会が行われた。これ以後日本からの世界大会参加者がだんだん増え、この頃では国別参加数順位の上位を占めるようになっている。北海道からも毎年何人かが参加している。

6．北海道での日本エスペラント大会

戦前１回、戦後２回、計３回の日本エスペラント大会が北海道で開かれた。戦前のは1936年８月、札幌グランドホテルにて。特高警察の監視はあったとしても、平和的な雰囲気で大会が開けたのはこのころが最後だったようだ。翌年旭川で開く予定だった北海道エスペラント大会は日中戦争（支那事変）勃発による軍隊動員のため開けなかった。

６５年の東京での世界大会の３年後（1968年８月）、北海道での戦後最初の日本大会が参加者３５５人を集めて札幌のホテルアカシアで開かれた。ちょうど北海道百年記念行事の年、北海道、札幌市から助成金を受けてエスペラント文の北海道観光案内を発行できた。

その２０年後の第７５回日本エスペラント大会は、大会常置委員会（ＫＫＫ）の要請を札幌エスペラント会（ＳＥＳ）が受けて１９８８年８月札幌で開かれ４５７人の参加者があった。１９７９年に翻訳出版した「アイヌ神謡集」にアイヌ語文法・辞典を入れて改訂した第２版を大会記念品とした。

7．先住民（アイヌ）文化紹介、北東アジア地域交流

エスペラントは国際交流のための言葉である。ユネスコの東西文化交流計画に沿って、日本の文学作品もかなりエスペラント訳されている。北海道からも民話翻訳はどうか、と考えたが、ここはもともとアイヌの土地だったから、とアイヌ文化を紹介することになり、知里幸恵編「アイヌ神謡集」を北海道の有志が集まってエスペラント訳し出版した(1979 年初版、1989年第３版）。

５年ほど前から、大会、合宿などの行事の際近隣の国（太平洋の向こうのお隣り－？米国、沿海州、韓国）からの同志を呼んで交流することが多くなった。また９９年１０月にはウラジオストクのアジア・太平洋諸国学生会議に訪問団を送り、現地のエスペラント会と北海道エスペラント連盟が機関誌交流を通じて協力関係を結ぶことを合意してきた。日本海を隔てた北東アジアの連携が今動き出そうとしている。

Fjodor POSTNIKOV　　Rusa inĝeniero kaj esperantisto

フォードル・ポストニコフの生涯

Elena NEDBAJLOVA,　Aleksandr TITAJEV

この文は、極東ロシア訪問団が参加した、ウラジオストックでの第 3 回アジア・太平洋諸国国際学生大会「国際共通語とエスペラント学」部会で発表されたものです。「極東ロシア訪問記」の補遺として掲載します。二葉亭四迷に「世界語」を出版させしめたこの人物の足跡は、カリフォルニアにまで及びます。

Antaŭ tri jaroj rusiaj kaj usonaj esperantistoj festis 125-aĝon de Fjodor Alekseeviĉ Postnikov kaj pasintjare okazis cent jariĝo de la evento, ligita kun la nomo de tiu mirinda homo.

Ĝuste cent jaroj antaŭ en Vladivostoko post la fino de militinĝeniera akademio kaj aviadlernejo revenis el Peterburgo en rango de leŭtenanto Fjodor Alekseeviĉ Postnikov.

Unue Postnikov venis al For-Oriento en la jaro 1891 kaj li komencis militservi en Ussurijska kozaka armeo apud vilaĝo Kamenj-Rybolov. Li venis tien post la fino de la lernejo nome de Imperiestro Pavel.

Antaŭ la forveturo li konatiĝis kun L. Zamenhov kaj kun la lingvo Esperanto, kiun li ne lasis la tutan vivon.

Veninte al For-oriento F.A.Postnikov decidis fondi Esperanto-societon, komence en la vilaĝo Kamenj-Rybolov kaj poste en Vladivostoko. La societo ekzistis nelonge kaj nur en la jaro 1901. Postnikov post reveno el Peterburgo sukcesis refondi Esperanto-societon, kiun oni nomis "Vladivostoka filio de Peterburga societo "Espero"", kiun Postnikov ĉefis dum du jaroj ĝis alveturo al Vladivostoko (1897~1899). Gvidante la Vladivostokan filion de societo ekde la jaro 1901 ĝis la jaro 1905 li klopodis disvastigi Esperanton en Japanio. Fama japana verkisto Futabatej Ŝimej (Hasegaŭa), lerninte ĉe la lecionoj de Postnikov internacian lingvon, en la jaro 1906 publikigis la unuan lernolibron por japanoj. Tie sur unu el paĝoj estas presita portreto de Fjodor Alekseeviĉ Postnikov kun subskribo "Patro de Esperanto-movado de Japanio".

Elmigrinte al Usono li reorganizis tie diversajn Esperanto-societojn, lernejojn, publikigis tiulingve ĵurnalojn kaj efektivigis internaciajn renkotiĝojn. La domo de Postnikov en Vladivostoko situis sub monto en estinta strato "Lazarevskaja" (nun ĉi tiu iomete ŝanĝita domo sub numero 99 situas en strato Puskinskaja). Dum ses jaroj ĝi estis ankaŭ loĝloko de socia agado de Postnikov. Sur ekstera okcidenta flanko de la domo estis desegnita granda verda stelo sur blanka fono kiel simbolo de Esperanto.

Kio koncernas la militservon en Vladivostoko, kapitano Postnikov estis menbro de Imperiestra Rusia Teknika Societo. Li estis engaĝigita en krean laboron lau multaj direktoj, inkluzive de kostruado de diversaj domoj, fortikaĵoj, lumturoj kaj aliaj objektoj en haveno Vladivostoko kaj ĝiaj ĉirkaŭaĵoj. Dum jaroj de militservo en korpuso de inĝenieroj Fjodor Alekseeviĉ vizitis Ĉinion, Germanion, Pollandon, Francion, Finnlandon, Aŭstralion, Hindion kaj Turkion. En februaro de la jaro 1903, ricevinte dumonatan forpermeson, li foriris vojaĝi al Japanio kaj Usono.

En Ameriko li konatiĝis kun la rusa ortodoksa pastro. Fjodor Alekseeviĉ estis surprizita de la vivo de Amerika popolo kaj ties kredlibero. Li ekpensis pri elmigro el Rusio kaj transiro kun familio al Ameriko. Dum Rusi-Japania milito al Postnikov oni komisiis projekti kaj konstrui la sferan aerostaton en la plej mallongaj limtempoj, ĉar atendi la aerostatoj de Rusio-Sankt-Peterburgo estis malfacile kaj longe pro la militaj kaŭzoj. Aerostaton oni projektis dum kelkaj horoj. Al ĝi oni donis nomon "Espero". En tiu tempo Postnikov kiel prezidanto de la loka Esperanto-societo aranĝis koncert-balon kies profitmonon uzis por plibonigo de financa stato de psikiatria hospitalo en la urbo Nikolsk-Ussurijsk. Multaj esperantistoj de diversaj landoj eksciis pri tio el gazetoj kaj ĵurnaloj eldonitaj en Rusio.

Ĉi tiuj intencoj kaj aranĝoj ne havis favoron flanke de la lokaj estroj. La pensoj pri elmigro tre ofte venis al kapo de Postnikov, kiu vidis neniujn perspektivojn en plibonigo de politika situacio en Rusio. Post la fino de Rusi-Japania milito la subkolonelo Postnikov rifuzis de milita servo, vendis la tutan sian havaĵon kaj forveturis al Ameriko.

Alveninte al Usono Pstonikov ŝanĝis civitanecon, loĝante en Ameriko iutempe sub familinomo Fred A. Post. Li laboris en diversaj departementoj, projektis kaj konstruis pontojn, fervojojn kaj fervojstaciojn, konstruis sistemojn de akvoprovizo kaj akvoforigo, konstruaĵojn por Panama-Pacifika internacia ekspozicio, por la dudekoketaĝa domo en San-Francisko kaj eĉ li servis en usona armeo.

La tutajn jarojn de vivo en Ameriko (ek 1906 ĝis 1952) estis por F. Postnikov en konstanta zorgo pri Esperanto. Veninte en 1906 al Kalifornio kaj jam havinte la grandan sperton de organizado kaj gvidado de la Esperanto-societoj en Peterburgo kaj Vladivostoko, li fondis la unuan Esperanto-rondon en la urbo Berkeley, en kiu studis gestudentoj de la loka universitato. En la jaroj 1912~1914 li Instruis Esperanton en diversaj superaj lernejoj de la urboj Berkeley kaj Oakland, dum somera tempo li organizis lecionojn en universitato de Ŝtato Kalifornio. En la jaro 1915 li organizis la 11-an internacian Esperanto-Kongreson en San-Francisko, publikigis esperantan ĉiutagan ĵurnalon-"Ekspozicio en Panamo"kaj "Pacifika Espero".

La milito interrompis kontaktojn inter esperantistoj de diversaj landoj. Post ĝia fino Fjodor Postnikov instruis Esperanton en superaj lernejoj de la urboj Antioh kaj Pittsburgh, en Oaklanda Supera Teknika Lernejo, en lernejo de la urbo San-Jose kaj eĉ en la asocio de aferemaj virinoj. En la jaro 1928 F. Postnikov iĝis prezidanto de la Esperanto-asocio en la urbo Berkeley, poste en la stato Arkanzas gvidis esperanto-rondon en la urbo Little-Rock. En la jaro 1948 li partoprenis en la 33-a internacia kongreso de la esperantistoj en la urbo Malmo (Svedio), al kiu kunvenis ĉirkaŭ 1700 delegitoj el 19 landoj, inter kiuj estis multaj korespondamikoj.

Ĝis la fino de sia vivo li donis lecionojn de la internacia lingvo, havis multnombran korespondadon, tutan "liberan" monon li fordonis por progreso de la esperanto-movado de la mondo, kio finfine kaŭzis firmigon de paco kaj amikeco sur nia planedo.

Esperantistoj en Rusio, Usono kaj Japanio ĉiam memoros tiun mirindan homon-inĝeniero,oficiro, Esperantisto kaj civitano de la tuta mondo.

Kiuj kaj kioj vi estas – poetoj el Ĥabarovsk ? (1)
ハバロフスクの詩人たち（1）

Miĥail E. KORĈIMARJOV

極東ロシア訪問団長だった宮沢直人さんがハバロフスクで知り合ったミハイル氏に原稿を依頼したところ、まず送られてきたのが、「極東ロシア訪問記」所収の「ハバロフスクの問題点と希望（新時代の古い都市）」です。次に送られてきたのが、ここにお見せする記事です。ロシア人は詩を好む民です。ハバロフスクは北海道からは仙台とほぼ同じ距離にある街です。

Ni maltimas diri, ke iu leganto, eksciinte la temon de nia artikolo, ne kredos al ni – ĉu povas esti en Ĥabarovsk bonaj kaj tre bonaj poetoj? Eble, la aŭtoro volas nur konatigi nomojn de siaj samklubanoj kaj amikoj aŭ konatigi kiel literatura kritikisto. Se eĉ en Moskvo kaj Peterburgo junaj talentaj poetoj estas malmultaj, kion oni dirus pri Ĥabarovskaj poetoj? Ĉu brilantaj poeziaj nomoj estas en la plej bona provinco de Rusio? Pri ĉi tio ni diros unu frazon – ĉi tiu tre serioza misopinio estas pardonebla. Ne povis fariĝi konataj en Rusio tiaj videblaj poeziaj talentaj kiel **Andrej Zemskov, Marina Samarkina, Olga Serbina, Gennadij Doroŝenko, Konstantin Malovinskij, Miĥail Cedrik**. Sed ili ne estas kulpaj. Ĉiuj Ĥabarovskaj poetoj (kaj aliurbaj poetoj) vivas en tempo de libera merkato, kiam ĉion determinas aĉetemo kaj elekto. La aĉetemo je versoj ĉi tiam malestas kaj eldonistoj ne proponas versojn al legantoj, kvankam poetoj povas proponi multajn bonajn versojn. Je rezulto, poetoj devas proponi siajn versojn al legantoj sen helpo de la eldonistoj – per deklaraj koncertoj kaj simple poetaj vesperoj. Kiam la samaj poetoj volas demostri siajn talentojn al kolegoj kaj prezenti talentojn de aliaj poetoj, ili povas ĉiam fari tion – jam ne unua jaro en Ĥabarovska arta muzeo estas la poetaro – "Platena centjaro". Tiuj, kiuj konas kaj volas kanti siajn kantojn je gitaro iras en klubon de barda kanto – "Bordo". Ni devas diri ke la klubo "Bordo" iĝis la bazo, de kiu eliris en grandan poezion de Malproksima Oriento multaj jam estimataj poetoj, kaj plej timemaj de junaj, ne konvinkitaj je siaj talentoj poetoj povas montri sin je junulara poetaro ĉe Ĥabarovska Unuiĝo de verkistoj. (la ĉefo de ĉi tiu poetaro estas talenta poetino Viktoria Luskova.) Certe, ni ne diros nur pri poetaj unuiĝoj, sed ankaŭ pri iliaj versoj. Ni komencas senprokraste paroli pri versoj, doni citaĵojn de belegaj versoj. Poetoj el Ĥabarovsk verkis grandan kiomon. Ili jam havas librojn – libro de **Andrej Zemskov** nomiĝas "Verso", libro de **Marina Samarkina** nomiĝas "Animo, ne lasu karnon", libreton de interesaj versoj eldonis poetino Marina Savcenko. Sian kompanian libreton eldonis junaj poetaj modernistoj el poetgrupo "Soneto". Ni estimu verkojn de Ĥabarovskaj poetoj – bardoj (poetoj kun gitaroj) **Svetlana Scebenjkova, Ekaterina Koznecova, Genadij Doroŝenko**. Ni povas proponi ankoraŭ iom da interesaj nomoj – nur inter junaj kaj preskaŭ junaj. Kaj se ni parolos pri maljunaj, ni aldonos nomojn de **Viktor Suhodolskij, Galina Klecenikova, Aleksandr Lozibov** kaj aliaj. Ni havas ankaŭ malan ekzemplon – jam demonstris sin kiel interesa, talenta poeto kaj knabo de dek du jaroj – **Artjom Lozikov**. Ni povus elpreni multajn citaĵojn el versoj de tiuj ĉi poetoj, sed ni volus konatigi mem poetojn al legantoj. (*daŭridota*)

Nova-kodo de la japanaj karaktroj JOKOJAMA Hirojuki

アイヌ語対訳記事「新しい文字コード」 横山　裕之

(aynu itak)
asir mozi ko^do
(Esperanto)
nova-kodoj de la japanaj karaktroj
(La japana karaktro estas la signo kiel la japana litero "kana", la ideografiajxo "kanzi" kaj aliaj.)

(aynu itak)
aynu itak a=nuye hi ta a=eywanke "asir katakana noka (mozi) ko^do" an ruwe ne.
(Esperanto)
Estas elfarita, uzotaj nova-kodoj de la japanaj literoj "katakana", kiam oni skribas ion en ajna lingvo.

(aynu itak)
usa wa^puro usa pasokon ka ta aynu itak a=nuye easkay kuni
1999 nendo kese pakno JCS (hugo^ka-mozi-syu^go^) tyo^sa-kenkyu^-iinkai
anak asir katakana noka (mozi) ko^do asir JIS kikaku or a=omare nankor
sekor a=ye ruwe ne.
(Esperanto)
Oni diris, "Por ke oni povas skribas ion en ajna lingvo per vorto-procedilo kaj persona-komputilo, gxis la marto, 2000, JCS-o (Japana-Kodita-Karaktraro) -Esploro-Studado-Komitato aldonos novajn kodojn de la japanaj literoj "katakana" al nova JIS-o (Japana-Industria-Normo). "

(aynu itak)
2000 pa 1 cup 20 to ta tu^sansyo^ anak asir JIS kikaku kar ruwe ne.
(Esperanto)
En la 20-a de januaro, 2000, tuusansxoo (Japana Ministerio de Internaciaj Komercoj kaj Industrioj) faris novan JIS-on.

(aynu itak)
asir JIS kikaku anak JIS X0213:2000 sekor a=ye p ne ruwe ne.
(Esperanto)
Oni nomas la novan normon "JIS X0213:2000".

(aynu itak)
ne kikaku or ta aynu itak a=nuye hi ta a=eywanke asir 20 katakana noka
(mozi) ko^do oka ruwe ne.
(Esperanto)
En la normo, trovigxas, uzotaj 20 nova-kodoj de la literoj "katakana", kiam oni skribas ion en ajna lingvo.

(aynu itak)
Ainu Taimuzu dai 8 go^ ne yakka oro ta asir 20 noka (mozi) a=nuye wa an hine,
a=eywanke asir katatana noka (mozi) ene oka hi:
(Esperanto)
La 20 nova-literoj trovigxas ankaux en la 8-a n-ro de la ajna-lingva jxurnalo "AinuTimes".
La uzotaj nova-kodoj de la literoj "katakana" estas jene:

セ゜（ツエ）(ce) ツ゜（トウ）(tu) ト゜（トウ）(tu) ク (k) シ (s) ス(シ) (s)
ト(ツ) (t) ヌ（ン） (n) ハ ((a)h) ヒ ((i)h) フ ((u)h) ヘ ((e)h) ホ ((o)h) プ (p)
ム (m) ラ ((a)r) リ ((i)r) ル ((u)r) レ ((e)r) ロ ((o)r)

(aynu itak)
Inta^netto (Internet) ka ta nerok noka (mozi) ko^do oka ruwe ne.
http://jcs.aa.tufs.ac.jp/jcs/pubrev/codetbl21.pdf
(Esperanto)
En la jena TTT-pagxo sur interreto, la karaktra-kodoj trovigxas.
http://jcs.aa.tufs.ac.jp/jcs/pubrev/codetbl21.pdf

(aynu itak)
asir JIS kikaku anak nihon-ko^gyo^-hyo^zyunka-ho^ sekor a=ye irenka
ani a=kar pe ne ruwe ne.
korka ne kikaku eywanke utar pirkare kusu a=etokoyki p ne ruwe ne.
(Esperanto)
La nova JIS-o estas farita laux la legxo nihon-koogyoo-hyoozyunka-hoo (legxo de normaligxo pri japana industrio).
Sed tio estas preparata, nur por ke la normo profitigas personojn uzontajn la karaktrojn.
(La normo estas libera kaj ne estas deviga.)

(aynu itak)
akus pasokon eywanke utar neun ne yakka ne mozi eramaspa rusuy yak easir,
sofuto kar kaisya ka, newaanpe OS neya apurikeisyon neya or omare nankor.
(Esperanto)
Pro tio, se personoj uzanta persona-komputilon, sxatas la literojn, unuefoje kompanioj farantaj programarojn, aldonas la literojn al la OS-oj (mastruma-sistemoj) kaj la aplikaj programoj de persona-komputilo.

(aynu itak)
yuniko^do (unicode) anak mosir epitta pasokon ka ta a=eywanke noka
(mozi) ko^do ne ruwe ne.
(Esperanto)
En la tuta mondo, unikodo estas uzanta kiel kodoj en persona-komputilo.

(aynu itak)
yuniko^do (unicode) or nerok noka (mozi) a=omare yakun pasokon ka ta asir
katakana noka (mozi) a=eywanke easkay ruwe ne.
(Esperanto)
Se oni aldonos la literojn al unikodo, oni povos uzi la nova-"katakana"-literojn en persona-komputilo.

(aynu itak)
Windows OS (pasokon-kihon-sohuto), MS-IME (kana-kanzi-henkan-sisutemu)
kar Maikurosohuto (Microsoft) ATOK (kana-kanzi-henkan-sisutemu) kar
Zyasutosisutemu (Justsystem) anak yuniko^do (unicode) or ta nerok mozi oka

yakun, asir mozi pirkano eywanke kuni p ne sekor hawean.
(Esperanto)
Microsoft-o, faranta Vindozo-OS-on (Windows-o-OS-on) (beza-softvaron de persona-komputilo) kaj MS-IME-on (sistemon transliterigantan la japana-literojn kana-ojn al la ideografiajxoj kanzi-oj), kaj Justsystem-o, faranta ATOK-on (sistemon transliterigantan la kana-ojn al la kanzi-oj), diras, "Post kiam la karaktroj trovigxos en unikodo, oni povos uzi la novajn karaktrojn."

アイヌタイムズは、札幌にあるサッポロ堂書店で店頭販売されています。
また、通販でも購入できます。ご希望の方は、郵便振替がご利用できます。
お名前、ご住所、通信欄に希望される内容をご記入下さい。

<定期購読>
Aコース（アイヌタイムズ本紙のみ）：購読料１５００円（１年、４号分）
Bコース（アイヌタイムズ本紙＋日本語版付き）：購読料２３００円（１年、４号分）
いずれのコースも、最長で３年の申し込みができます。
<バックナンバー>
アイヌタイムズ本紙　創刊号.第１３号：各１部３００円
アイヌタイムズ日本語版　第４号.第１２号：各１部２００円
送料は別途負担していただきます。１部の場合は９０円。

郵便振替口座　０２７１０.２.１３３１４
加入者名　アイヌ語ペンクラブ
購読申し込みに関するお問い合わせは、以下までお願いいたします。
〒055-0101　北海道平取町二風谷 80-25　　萱野志朗様宛

「アイヌタイムズ」への投稿募集のお知らせ

あなたもアイヌタイムズに参加してみませんか。アイヌ語ペンクラブは、読者のみなさんからのアイヌ語による投稿を募集します。題材、形式、ページ数などは自由です。アイヌ語原文と日本語訳に自己紹介を付けて、下記までお送りください。

〒047-0016　小樽市信香町６．１１　　浜田　隆史 宛
TEL & FAX: 0134-24-9620
e-mail: hamada@mb.infosnow.ne.jp
なお、採用の際には、私たちペンクラブ会員の原稿と同様に、原稿内容についてのチェックおよび打ち合わせ（編集会議、またはお手紙にて）を行います。

≪Fenestreto por lerni　学習の小窓≫

紛らわしい単語

libero 自由、libelo とんぼ、rivero 川、ribelo 反乱

tablo 机、tabulo 板、tabelo 一覧表

prava 正しい、pruvi 証明する、provi 試す

（"Vi pravas. あなたが正しい"という便利な決まり文句があるので覚えられました。）

＊Oomoto: n-ro444, 1999 jan-jun: Oficiala organo de Oomoto kaj Jinrui Aizen-kai(UHA) B5X25 頁、全文エスペラント、表紙カラー、写真豊富。Konsilio pri Vivetikaj demandoj de UHA(人類愛善会生命倫理問題対策会議）の「脳死は人の死でない」運動について、など。

＊La Vulkano: N-ro 133, 2000 Mar.-Maj.: LA ORGANO DE HUKUOKA ESPERANTO-SOCIETO B5 X10頁中E.文３頁。長く休刊していたが今回復刊。最後の１頁以外は全部、去年７月他界された元九州連盟会長 S-RO TOIDA Naoki(問田直幹、元九大医学部教授）の追悼文集。

＊Novajoj Tamtamas: n-ro 158 aprilo/2000, A4 X 4頁、全文エスペラント（JER）

＊La Tamtamo: 第312 号(2000 年 4月号,JER), A4 X 4頁、日本文。毎号の「読書会報告」は読みたい本を探す道案内。"Kie Boacoj Vagadas" (Elja Salovaara)について「ここにある幻想の世界は幼いころ北海道の祖父母から聞いた魑魅魍魎の世界に似ている」との読後感がある。

＊Hokkaidô Rômazi Kenkyû No.104 （復刊78）北海道ローマ字研究会発行, Hs.12n.4gt. 1nt. トップ記事で「ローマ字問題を放置する政治・行政を叱る」この会の会長 TOTINAI Kazuoさんはもと SES会員。受贈資料に Heroldo de HEL N-ro83.

＊PONTETO: Majo 2000 N-ro 181 ：関東エスペラント連盟:B5X12頁の内エスペラント文３頁。関東大会にネパールの同志を呼ぶため１口3000円のカンパを集めるとか。松代の地下壕見学の報告も。

＊La Tamtamo: 第313 号(2000 年 5月号,JER), A4 X 4頁、日本文。

＊Novajoj Tamtamas: n-ro 158 majo /2000, A4 X 4頁、全文エスペラント（JER). MALLONGE EL KAMAKURA(SIBAYAMA Zyun'iti)連載中。Vojaĝo al Iranoは連載開始。

＊VOĈO:Nro.5, 2000. Maj. Organo de O.E.S.（大阪Ｅ会）。長く連載の「つながり小辞典」は MA$ に達している。今度この小辞典の A-K 部分が発刊されたが、それ迄の「涙の奮闘記」が出ている。古いMacintosh のワープロソフトで打ち込んであったために－－。

＊VERDA MONTETO:Majo,Junio 2000, 和歌山, N-ro111;変形B5版 X 8頁のうちＥ文 2.5頁。

＊La Movado N-ro 592 jun. 2000, B5版16頁の内Ｅ文は２頁。「より強力な"民際"の運動を！」がトップ記事。Kajero Libervolaの "Kioncelis ISHIHARA per siaj vortoj" はザメンホフ時代のポグロムから始めて石原都知事の第三国人発言に及ぶ。

＊Al Vi Kara:N-ro 89 (2000jun.),京都Ｅ会、B5 X24頁の内Ｅ文５頁。「北の国よりメールマガジン『エスペラント』発信！」は HELのメルマガを９頁にわたって紹介。Reza Kheir-Khah のイラン訪問団報告も。

＊La Tamtamo: 第314 号(2000 年 6月号,JER); A4 X 4頁、日本文。

＊Novajoj Tamtamas: n-ro 160 junio /2000, A4 X 4頁、全文エスペラント（JER).

＊NOVA VOJO:2000.6 (N-ro 353 junio),大本エスペラント普及会, A5 X34頁、内エスペラント文６頁。「今日の世界語　エスペラント」は、大本教主の７年前の言葉、それを理解できていなかった、という反省の文（西永篤史）。

＊LA SUNO:N-ro 71, 2000. 6. 1,山梨エスペラント会、B5 X19頁のうちエスペラント文２頁。

＊Mejlŝtono 2000/6, n-ro 159, 仙台Ｅ会：B5 X4頁、日本文。仙台エスペラントの家引っ越し通知など。

＊Eskalo 第86号、2000年 6月、川崎エスペラント会、B5 X 4頁中E. 文 1/4頁。

＊センター通信：2000年 6月 5日名古屋エスペラントセンター発行 N-ro217 B5X12頁の内エ

スペラント文２頁。「切り抜き帳」に、４月７日の朝日新聞「声」の「復活できぬかエスペラント」に対し名古屋の Rondo Cambro Carma の山田シマ子さんが答えた「生きていますエスペラント」(4月14日) が出ている。世間に見える活動がないと、いつの間にか「エスペラントは死んだ」ことになってしまう！

＊ナチスの爪痕を訪ねて（上）（下）

週間金曜日６月３０日、７月７日号に連載した小林司執筆記事のコピー。世界エスペラント大会（ベルリン、1999）のツアーを機会にエスペラントで取材したルポ。

＊水星 7号：水星舎受贈資料他 2000 年1- 7月 B5 X12頁、和文。受贈資料に Heroldo de HEL を含めエスペラント関係が８件出ている。

さらに「祝！ メールマガジン『国際語エスペラント』創刊！」の文が「筆者 KAWAI Yuka」として１頁を占領しているのに驚く。ほかの頁に「--ねこそぎ盗聴--恐怖の国際通信監視システム Echelonを知っていますか？」があるが、Heroldo de HEL N-ro 72(1998 feb-mar)に出た La Granda Frato のこと。

＊PONTETO: julio 2000 N-ro 182 ：関東エスペラント連盟:B5X16頁の内エスペラント文９頁、そのうち７頁を関東大会での D-ro Ulrich Linsの講演 "De germaneco al eŭropeco - La diskuto de germanaj intelektuloj post la reunuiĝo" が占めるが、二次大戦後の分裂国家から1990年の統一に至るドイツの歴史の、よくまとまった解説になっている。

＊Mejlŝtono 2000/julio, n-ro 160, 仙台Ｅ会：B5X8頁の内Ｅ文３頁半。Kio estas "oficialaj lingvoj? は英国の言語事情を解説。

＊La Movado N-ro 593 jul. 2000, B5版20頁の内Ｅ文は１頁半。Salonoに柴田巌氏の論文「中垣虎児郎伝」を紹介する碓井亮の文がある。

＊センター通信：2000年 7月 3日名古屋エスペラントセンター発行 N-ro218 B5X16頁の内Ｅ文２頁半。「インド亜大陸のエスペランチストを訪ねて（藤原敬介）」、「小倉英敬さんのこと（SOJO)」－小倉氏は名古屋で学生時代エスペラントを学び、外交官としてペルーの日本大使館事件で人質になった経験を、外務省退官後、「封殺された対話 ペルー日本大使館公邸占拠事件再考」（平凡社 2600 円）として出した人。

＊受講生通信 第71号 2000-07-04:沼津エスペラント会通信講座：B5X 10頁のうちＥ文３頁。山岸悦子（札幌、中級）の「お便り」がある。

＊Hokkaido Rômazi Kenkyû No.105 (復刊79) 北海道ローマ字研究会発行, Hs.12n.7gt.11nt. 受贈資料に Heroldo de HEL N-ro 84.

＊MEROS 67号：2000-7-15 水星舎発行、和文文芸誌。「夢日記（芳賀清一）」に、「大きいエスペラント大会が弘前の新しいホールで--」などの描写がある。

＊第41回東北エスペラント大会の概要（第二報）2000年９月９日（度）～１０日（日）、仙台恒例の朗読コンクールの課題文添付

＊NOVA VOJO:2000.7/8 (N-ro 354),大本エスペラント普及会, A5 X32頁、内Ｅ文７頁。1988年来日、札幌の日本大会にも来、その後12年大本に勤めていた Joel Brozovsky は７月３日離日したので、毎号彼が書いていた Perspektivoはこの号の Ĝis revido! で終わる。今後はELNA (Esperanto-Ligo por Norda Ameriko)で働く。

＊La Movado N-ro 594 aŭg. 2000, B5版20頁の内Ｅ文は３頁半。Mesaĝo por la japanaj aŭskultantoj(Spomenka Ŝtimec)はNHK-FMが８月５日放送した「クロアチア物語」のためのもの。放送では初めの自己紹介しか聞こえなかった。

＊フォーラム２０００（？）

ろんど・ほびーお から受け取ったチラシ。

９月９日東京港区立女性センターで行われる行事、エスペラント講習会もある。ミニミニ国際会議の使用言語は日本語・エスペラント語。

チラシ１面ではこの行事の名は何か、さっぱりわからないが、申込書を見ると「みなとフォーラム」らしい。

Raporto de la 8-a kunsido de HEL-Komitato/第８回 HEL 委員会報告

日時：６月２４日（土）17.30 ～　場所：Rondetag^o　札幌市

出席者：星田　淳、後藤義治、佐藤英治、横山裕之、川合由香、宮沢直人、

樺山裕介、前田幸一、鈴木佳子（事務局員）、権野正浩（会員、傍聴）

＊メールマガジン：Pubzine が増えて現在読者は六百二十余人、読者からの反響や行事予告の依頼や投稿も多いので特集号を出した（６月１０日）。

＊ＨＥＬホームページ：アクセス数（？月？日現在）日本語ページ 3210 件、エスペラントページ 1477 件。メルマガが始まる前は日本語ページ、エスペラントページのアクセス数はほぼ同じだったが、開始後日本語アクセスがぐんと増えた。使用可能容量５Ｍバイトの内２．２１６Ｍバイトを使用中。

＊北方圏情報ページ（北方圏センターのホームページ）に団体として加入し、ＩＤとパスワードをもらった。今後ＨＥＬ事務局と北方圏センターが連絡して運用する。

＊機関誌：五十嵐岳男氏からの手紙（ＨＥＬ事務局宛、N-ro 83 p17 の anonco に関連）は、編集長から返事する。次号発行は８月末。

＊青年部について：北大グループが活動していた９７年、大会で承認された組織だが、現在は事実上、組織活動はない。廃止か再編か考える必要がある。

＊第６４回北海道大会

・ロシアからの招待：ＨＥＬとしては１人を招待する。その他の人は、本人が航空運賃を負担、日本国内の経費はＳＡＴ札幌が負担する。

・小樽現地の体制：人が少なく不十分なので大会専従として権野氏を現地に張りつける。そのための経費支出を含め若干の討論の末１０万円の支出を承認。

＊次回委員会は８月１９日１７時３０分、Rondetag^o にて。

Raporto de la 9-a kunsido de HEL-Komitato/第９回 HEL 委員会報告

日時：８月１９日（土）17.30 ～　場所：Rondetag^o　札幌市

出席者：星田　淳、後藤義治、佐藤英治、横山裕之、川合由香、宮沢直人、

樺山裕介、中野常明、鈴木佳子（事務局員）、権野正浩（大会専従）、松野元（会計監査）

＊大会でのＨＥＬ総会議案審議：その中で以下の討議があった。

＊来年（６５回）北海道エスペラント大会の件：立候補（招待）の声なし。順序から行けば札幌となる。その際はＳＥＳとＳＡＴ札幌合同のＬＫＫを組織したい。

＊役員人事について：若干の討議があった。結果は大会での議題「役員改選」として提案される。

＊青年部の存廃について：現在の木村部長の意志確認の上決定する。　松野 会計　川合 庶務 教育

＊９月９日パネルディスカッションについて：司会（コーディネータ）を樺山がやる。１人当たりの最初の発言（基調報告）は通訳含み１５分とする。

＊松野会員から［Heroldo de HEL の編集内規案（N-ro 84 p31 の編集原則）３のＡの改正案］が出され討議されたが、「個々の問題については編集長の判断に任せる」ことを再確認するにとどまった。

＊機関誌（次号８５号）８月２６日締切り、９月１日発行とする。

＊次回委員会は大会中と閉会後適宜に開く。

Disdonado flugfoliojn pri Esperanto　　KAWAI Yuka

HELによるエスペラント宣伝チラシ等の配布について　　川合　由香

『Heroldo de HEL』N-ro83　p17の委員会報告は、HEL内外の読者のあいだで少なからず物議をかもした。「Eのパンフ（ビラ）を『国民の歴史』出版記念講演会で配る準備中」という点についてである。同ページには連盟員松野元氏によるこの本の紹介が載った。
N-ro84には樺山編集部長の『Heroldo』の編集方針が書かれている。しかし、パンフ配布については第6回委員会で話題にならなかったこともあり、「人が集まる場ならどこでもEの宣伝をすればよいというものではない」という批判に対する答えは出されていない。よって以下に私の一委員としての意見を書かせていただく。

これまでにもHELは、市民集会などの場を借りて、機会があればEの宣伝に努め、JEIによるパンフ、複写自由の沼津E会によるビラ、その他を配布してきた。
私は今後のために、次のような原則をHELが連盟の方針として持つことを提案する。
「ビラ等をまくために借りる場と、HELの“連盟としての”関与との関係を明らかにする」

今回の『国民の歴史』出版記念講演会でのビラ配布は、結果的には主催者側の都合で行われなかった。が、私はそれに先立って、「HELが連盟を挙げて自由主義史観（『国民の歴史』編者・西尾幹二氏らの提唱する日本近代史の評価スタンス）を支持しているわけではないので、ビラの問い合わせ連絡先は、HELではなく、松野氏個人にすべきだ」という意見書を委員諸氏に送った。
別の例を挙げる。SAT札幌はこれまで、国労闘争団の支援集会でしばしばビラ配布を行ってきた。JRのいわゆる国労不採用問題については、最高裁が「不当労働行為である」と判決を下しており、ILOからも同様の勧告が出されている。したがって、国労支援の場でHEL名でEの宣伝ビラをまいても「間違ったこと」とはいえないであろう。しかし、連盟員のなかには「国鉄の分割民営化は適切だった。それに反対した国労の組合員がJRに採用されないのは当然だ」と考える人もいるかもしれない。だから、この場合、問い合わせ先はHELではなくSAT札幌とすべきであり、事実、SAT札幌諸氏はそうしてきた。
　では、アイヌ語・アイヌ文化復権運動支援の集会ではどうか。HELは「アイヌ語地名を大切に！市民ネットワーク」にオブザーバー参加しており、二風谷で合宿を開いたり、ホームページにアイヌ語問題を載せたりしている。また、「アイヌ神謡集」をE訳して高い評価を得てきた。これらのことから、「アイヌ文化復権を積極的に支持する」という明確な総会決議のようなものこそないが、アイヌ文化復興支援の集会でHEL名でビラをまいても差し支えはないと考えられる。

厳密にいえば、およそ政治的ならざる集会などというものは存在しないであろう。連盟員はEの旗の下に集まった集団であり、それ以外の思想信条はさまざまである。であるから、Eの宣伝は機会をとらえて積極的に行うべきではあるものの、「宣伝のために借用する場（の趣旨）」と「HELの責任」との関係を明らかにしたうえで、われわれは行動すべきであると思う。連盟員の一部だけが関与賛同している集会ならば、連絡先は個人にする。HELが連盟として支援している場ならば、連絡先はHELにする。これだけでよい。
（以上）

Mi insiste kontraŭstaras tian agon, ke HEL oficiale kontraŭstarus la politikan movon de Japanio, en kio la angla lingvo farigu la dua oficiala lingvo de Japanio

MATSUNO Hajime

HELが組織の公的意識として、我が国の英語第二公用語化政策に反対することに、私は断固反対する　　松野　元

「えっHELが英語第二公用語化に反対する？！」私がHEL内にその動きを見たのは、第5回HEL委員会での川合提案だった。そして、ヘロルド84号における今回の樺山提案である。両者はHELが組織の公的意志として、英語第二公用語化反対の「宣言」ないし「声明」を対外的に行うことを求めている点で共通している。ならば私は、基本的に英語第二公用語化政策に積極的賛成意見を持つ連盟員である。主に樺山提案に対する批判的検討を通して、連盟員の全てにHELが組織として特定の宗教・思想・信条・政策etc...に対して賛否の「宣言」「声明」「運動」を行うことに反対することを求めたい。

先ず、樺山提案『英語の第二公用語化に反対する』の一段落目、「英語は世界の全てに受け入れられた国際共通語ではなく、あくまでいち民族語を便宜上、異言語集団に属する者の意志の疎通に利用している世界最大の例に過ぎず…」は事実であり、私も同意する。しかし、それが英米両国の過去の植民地主義の遺産だから国際語とは言えないという主張は性急に過ぎて同意できない。私は英米語が世界最大の「国際語」として実態上機能しているのには、それなりの理由があると主張します。第一に他の国際語（中国語・フランス語・スペイン語・ポルトガル語・アラビア語）に比して、言語構造が単純だということ。第二に自らの夢を実現させる為に貪欲さと柔軟さを持って近代主義の先兵となったアングロサクソン族の民族性とそのパワーによるものだと言うことです。その中から学ぶべきは学び、批判すべきは 批判するというのが思想的哲学的自由主義者たる私の考えです。また、日本の国益の観点からも、英語の第二公用語化で、日本人の中でディスカッション・レベルの英語話者が増えるとすれば、それは良いことだ。外交・国防・経済etc...で自らの立場を相手に対し、明確に主張するときに役に立つからだ。

次に二段落目の『結果の平等』を国際語に持ち込むことにも私は反対だ。私は『国際語』もその実用性、魅力、話者の活力etc...で自由競争のふるいにかけられるべきだと主張します。当然アイヌ語etc、の少数民族語に適切な少数者優遇政策（アファーマティブ・アクション）を取ることは必要だ。ただそれは『機会の平等』の保証の範囲内においてである。その上でアイヌ語がアイヌ人社会で実際に機能するか？また国を共有する大和系、琉球系の社会にまでその実用性、魅力を伝えることが出来るかは、アイヌ人自身のパワーと努力による。結局、英米語を『強者』に見立て、エスペラントを『弱者』と見なして、英語の第二公用語化政策が何らエスペラントを実質的に抑圧も迫害もしないにも関わらず、それに反対せずにいられない樺山氏と川合氏の主張は、古典的階級闘争史観に基づく世界観によるものだとしか思えない。HELが組織として、特定のイデオロギーに基づく政治的声明、運動をすることに連盟会員および本誌読者は果たして賛成なのでしょうか？ひとりひとりがこの問題に対し、真剣に考え、議論し、自らの立場を明確にされることを望みます。そして、もし、彼らが連盟総会において、その提案をして来たとき、多くの連盟員の意志で、それが否決されることを望みます。

彼らが英語の第二公用語化政策に反対なら、『英語の第二公用語化に反対するエスペランティーストの会』（仮称）のような別団体を私的に作って運動を思う存分やれば良い。私ならば、そんなことに反対するエネルギーがあれば、むしろ『エスペラント第三公用語化』の実現を私の属する自由党を通して働きかけるであろう。その方がエスペラントの普及、社会化にとって有益だからだ。

もう一度言おう。将来、全体主義的政策によって、エスペラントそれ自身が抑圧・迫害される状況下のとき以外は、HELは政治的声明・運動をすべきではない。私はリベーラ・エスペランティースト（自由主義的エスペラント話者）としてそれに断固反対する!!!

そして、もし、樺山提案が連盟総会で可決し、HELが組織の公的意志としてそのような声明・運動を実行した際には、私はHELを脱会せざるを得ないことをここに明言しておきます。

Protesto kontraŭ "El la redaktejo"
「エル・ラ・レダクテーヨ」における問題

MATSUNO Hajime　松野　元

1．批判権・反論権を奪った形でコメントだけはリークする姿勢

本州の関東地方のBさんの公開拒否を受けた抗議文の中から「自由主義史観を支持する～人権侵害には許し難いものがあると。」という事実誤認と戦友会等の元日本兵に対する甚だしい人権侵害の文章をリークして載せているが、私はこれに対する反論をいったい誰に向かって書けばいいのかわからない（Bさん？樺山さん？）こと。Bさんに出来た場合でも私が実名でBさんが匿名なのは不公平、不公正、ダブル・スタンダードではないか？

2.被害者（慰安婦）の人権をファッショ的ドグマにしてしまい、加害、被害双方の証言に対しての批判権、反論権、事実かどうか検証していく権利（こちらも立派な人権）を侵害する3.A条項運用を公言していること。

よって、このままでは樺山さんの私意的人権概念のみ優遇され、それ以外の人権は抑圧ないし封殺される可能性が大である。これを阻止し、HEL機関誌の自由な公的言論・表現空間を押し広げていくため、編集権者がエス投稿文を不掲載に出来る場合は「特定の個人や団体の思想・表現について、社会的地位や身分、容姿、性格を主な根拠とする他者否定であると判断される場合のみ」とすべきだ。これを達成するため、編集内規案3のAは「誹謗中傷を内容とするもの」に限定すべきです。

（編集注：これは、8月19日の委員会に提出された意見書です。委員会の勧告によりHeroldoに掲載しました。）

松野さんへの回答

樺山　裕介

1について：Bさんにではなく私に反論を書くべきです。Bさんにはこの抗議を送り付けた2人の委員以外に公にする意図はなく（だから匿名にしました）、それを編集部長たる自分に対する非難だと判断して、一部を公にして自分の姿勢を明らかにするのに使ったのは私です。

2について：強姦された人を「物的証拠不十分」により嘘つきだと言うような、<u>今、現に不当な傷を負っている人を否定する「権利」</u>などこの誌上ではいっさい認めません。

第三段落について：編集内規を作ること自体が委員会で否決されました。編集権（記事の選択権）は、中野常明さんと私にあり、委員会または総会は私たちを罷免できます。（松野さんも委員になる予定ですね）。したがって松野さんの提言を参考にはしますが、受け入れることは断ります。委員会で「人権侵害」をより範囲の小さい「誹謗中傷」にすることを呑んでもよいといいました（戦時性奴隷だった人への誹謗中傷を許さない）が、多様性とともに、質の維持・向上も担うべきなので、編集側の能動性を確保するため、撤回します。

編集室からのリーク

小樽で一部のロシアからの船員の不行状のせいで、銭湯が日本人以外の入湯お断りにして、問題になったのは知ってますね。そこで、道大会の機会に、ナホトカから来る参加者といっしょに銭湯に行こうという案が浮上。言い出しっぺは樺山。委員会ではうけたが、さあ、本当にやるのか？

Adiaŭa Saluto
退会あいさつ
KAWAI Yuka
川合由香

Karaj HEL-anoj,
Hodiaŭ mi devas skribi mesaĝon malagrablan por vi.
Mi malaniĝas de HEL.
La kialo sekvas. Lastatempe, HEL tre aktive agadas kaj mi multe valoras tion. Sed aliaflanke, ŝajnas al mi, al nuna HEL mankas Esperanteco. La Esperanteco, laŭ mia kompreno, estas etoso per Esperanto celi mondopacon, konstrui socion, kie homaj rajtoj, precipe lingvaj rajtoj, estas sufiĉe estimataj. Tiusence, rigardinte "Helordo de HEL" (n-ron 83 kaj malnetojn de ĉi numero), mi konkludis, ke lastatempa HEL celas maldirekten je mia ideo skribata supre.
Mi pensas, ke nur uzi Esperanton ene en Esperantujo kaj memkontenti ne havas signifon. Ni, Esperantistoj, devas kaj povas allabori al la reala socio, kie plejmulto ne havas intereson pri lingva diskriminacio, lingvaj rajtoj kaj aliaj baroj kontraŭ pacocelado.
Kompreneble, malignori diversajn opiniojn de anoj estas grave. Tamen, HEL devas havi klaran celecon de sia agado kaj ankaŭ foje rifuzi ian opinion. Kiu rajtas kaj respondecas? La komitato, kiu estas konfidata de aliaj HEL-anoj, eble. Ĝis nun mi klopodadis laŭ mia maniero, sed tio ne estas akceptita.
HEL-anoj ne estas 90 da homoj aleatore samplataj el 5700000 da hokkajdanoj sed devus korektiĝi memvole kun konsento al la statuto de HEL. Tial mi opinias, ke ene en HEL la anoj bezonas pensi kaj agadi ne ĉiam same kiel en ekstra socio. Konkretekzemple, lastatempe en Japanio oni senzorge uzi la vorton "homajn rajtojn" troe kaj sekve kelkaj kritikas tiun tendencon. Kaj kelkaj el ili ne nur kritikas sed ankaŭ malamas la vorton - kaj eble ankaŭ ĝian signifon - "homajn rajtojn". Laŭ mia penso, Esperantistoj donas specifikan kaj taŭgan difinon kaj signifon al tiu vorto kaj sencese agadas celante ĝin. Bedaŭrinde, nuna HEL inkluzivas la kontraŭan potencon senpense.
Bv. relegu la artikolon 3 de statuto de HEL.
Mi ne intencas sinpravigi. Pro mia malaniĝo, HEL subite perdis Ĉefulon de Studado kaj Lernado kaj Ĉefredaktoron de Retpoŝta Gazeto. Mi estas kulpa pro tiu forlaso de mia respondeco.
En nunaj grandaj tajdoj de tutmondiĝo, t.e. krizo de malgrandaj lingvoj, kaj dekstreniĝo en Japanio, mi atendis kaj estis preta, ke HEL reagu iamaniere. Sed mi jam malesperis. Mi laciĝis plene.
Sed mi daŭre estos Esperantisto nepre. Ie, iam mi povos revidi vin. Vi ĉiuj fartu bone ĝis tiam, mi petas. Nun mi skribas intence; Adiaŭ!

El la redaktejo 編集部から

KABAYAMA Yûsuke 樺山 裕介

Kiam mi revene aktiviĝis pri E, 1997, s-ino KAWAI Yuka jam aktivis en HEL kiel komitatano elde la klubo de la Hokkajda Universtato. Ŝia ekzisto ĉiam instigis min iĝi praktika esperantisto. Vi scias, ŝi estas juna, sindonema kaj evidente progresanta esperantisto. Sed nun ŝi eksiĝas el HEL. La perdo estas granda domaĝo. Verdire, el aliaj membroj de HEL troviĝas tro malmultaj kiel efektivigemaj esperantistoj kiel ŝi estas. Tial ni domaĝas plu grave.

エスペラントからずっと離れていた私が、一念発起して、薄い初級教本をやり直しただけで、1997年の新年講習会に飛び入り参加して復帰したころ、川合由香さんは、北海道大学エスペラント同好会からHELに入り、活躍を始めていました。下ネタで注目されていた彼女に1998年の新年講習会で実際に会ってから、自分がエスペラントの力をつけるのに、私より少し上をゆく川合さんの上達ぶりを常に意識していました。

その川合さんがHELを辞めます。

その理由については、思うことはいろいろありますが、ここでは述べません。

目に見える形で成長し、連盟の活動に献身的に寄与してきた、貴重な若手の人材を失うのは大きな痛手です。でもその痛手は、そのようにエスペラントを自らの力にして活用している人が連盟にあまりに少ないことの裏返しでもあります。北海道大会に招かれた菊島和子さんは、「北海道のE界の問題は、星田淳委員長と、他の人たちとの実力差がありすぎることだ」という意味のことを語ったそうです。菊島さんの知らないであろう、エスペラントを流暢に話す人を5,6人ほど思い浮かべましたが、それでも少ない。宮沢直人さんは、Revuo Orienta 誌（1999年1月号）に寄稿した、「アイヌ語地名と日本語地名の併記を求める運動に参加して」の中で、「北海道に住むエスペランチストは多く数えて500名。その内、自由にエスペラントをしゃべれる者は10名にみたない。」と、言い切っています。（実は、この状況を変えられるのは、川合さんと自分の二人だろうと、おこがましくも、自負しておりました。私は川合さんより6歳年長ですが、若手の両輪のように思っていたのです。）川合さんを惜しむなら、まず自分たちを少しの勇気で変えましょう。まず、下手でも、詰まってでも、エスペラントを口にしようじゃないですか。

Mi fariĝis pieroto ĉe somera festo.
Pieroto estas muto, kaj ĝoja kaj malĝoja.

Heroldo de HEL
第85号 (2000. 9. 3)
北海道エスペラント連盟機関誌
編集部 〒075-0041
芦別市本町 1065-64-B-101
樺山 裕介方
tel/faks 01242-2-1305
電子メール kabaty@fa3.so-net.ne.jp
郵便振替口座
02700-6-17075
北海道エスペラント連盟
正会員 3000円 家族会員 1000円、
青年会員(25歳以下) 1500円
購読会員 2000円

9月9日（土）・10日（日）
小樽で皆さんお待ちしてます!!
第64回北海道エスペラント大会

大会テーマ　「21世紀、心の国境はなくなるか？」
－ エスペラントは国境を越えて －

大会プログラム

9月 6日（水）～8日（金）　大会直前エスペラント入門講座
18:00～20:00　受講料 500円（エスペラント祭参加費含む）
小樽：市民センター（マリンホール）　TEL 0134-25-9900
札幌：ロンデタージョ TEL 011-717-4189

9月 9日（土）　エスペラント祭 13:00～16:00
市立小樽図書館視聴覚室 TEL 0134-22-7726　小樽市花園 5-1-1

パネルディスカッション
「北海道・ロシア新時代を考える」
-21世紀、心の国境はなくなるか？-

パネラー：ミロスラバ サブチェンコさん（ナホトカ技術及び経済研究所講師）、セルゲイ アニケーエフさん（ロシア国立極東大学函館校副校長、教授）、アイヌ民族 現在交渉中、松野 元さん（ヤマト人、北海道エスペラント連盟連盟員）

18:00～20:00　懇親会　懇親会費 3000円～3500円予定

9月 10日（日）　北海道エスペラント連盟総会 11:00～16:00
小樽港湾労働者福祉センター　TEL 0134-22-7514　小樽市港町 4-4

大会参加費　道内エスペランチスト　2,500円
家族参加者及び不在参加者 1,400円
一般市民及び道外参加者　500円
高校校生以下　無料
＊宿泊費別途　1泊朝食付き ¥3500

参加申込は、宿泊、懇親会参加の有無を明確にし、ご連絡下さい。

《申込・連絡先》
小樽エスペラント会：小樽市奥沢 4-4-1 前田幸一方 TEL 0134-33-8062
連盟事務局：札幌市北区麻生町 1-3-13, 3F ロンデタージョ
TEL/FAX 011-717-4189